

学習指導基本計画

1 はじめに（現状と課題）

本校の児童は、全体的に明るく素直であり、温かい雰囲気に含まれている。学級文庫・学年文庫・図書館の整備により、いつでも読書できる環境にあり、読書好きの児童が多い。教師による「読み聞かせ」では、どの児童も耳を傾け、懸命に教師の声を聴こうとする。音読・漢字学習・計算練習は、こつこつ努力する児童が多い。学習における発表活動では、積極的に自分の意見を述べる子もいるし、自主的に学習に取り組んでいる児童もいる。

しかし、指示されたことはできるが、自ら気づき、考え、行動できる子は少ない。また、挙手して発表することが苦手の児童もいて、話し合い活動では、一部の児童によって進められる場面がある。粘り強く、あきらめず取り組める力が弱い面もある。

新しい学習指導要領総則に、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」とあり、また「言語活動の充実」も書かれている。

以上のような点から、本年度は、言語力育成の中核を担う「国語科」に焦点をあて、「基礎的・基本的な知識・技能の習得と、これらを活用しての思考力・判断力・表現力の育成」に取り組んでいきたい。

2 中長期的な目標

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得に努め、さらに知識・技能を活用する学習活動を充実させる。
- (2) 共に生きる心を持ち、自他の人権を尊重する力を育てる。
- (3) 教育環境の整備・充実と、その活用を図る。

3 本年度の具体的行動計画（※印は評価指標）

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得に努め、知識・技能を活用する学習活動を充実させる。

◎基礎的・基本的な知識・技能の習得に努める。

- ・「話す・聞く・読む・書く」の活動を大切にする授業の充実に取り組む。このため、「話す・聞く・読む・書く」の目標を以下のように設定する。

	低 学 年 目 標	高 学 年 目 標
話 す	<ul style="list-style-type: none">・ 姿勢や口の形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりと話す。・ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら、筋道を立て適切な言葉遣いで話す。	<ul style="list-style-type: none">・ 相手を見て、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。・ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。
聞 く	<ul style="list-style-type: none">・ 大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞く。	<ul style="list-style-type: none">・ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめることができる。
読 む	<ul style="list-style-type: none">・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、音読する。・ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	<ul style="list-style-type: none">・ 自分の思いや考えが伝わるように、音読や朗読をする。・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえて、自分の考えを明確にしたりしながら読む。
書 く	<ul style="list-style-type: none">・ 漢字の読み書きを習得する。 ※読み 100パーセント ※書き 80パーセント（次年度は100パーセント）	

※ 話す・聞く機会の充実(学級活動・集会・行事等) 集会月1回開催

※ 読書冊数 月5冊以上

※ 基礎的・基本的な学力の定着をはかるために、「厚生タイム」の充実。漢字ドリル学習 年70回以上

◎知識・技能を活用する学習活動を充実させる。

・表現力(日記・作文・詩・記録・報告文)の育成。

※ 週1回以上書く時間を設定する。

◎伝統的な言語文化に親しみをもたせる。そのために、以下の目標を設定した。

※ 年3時間以上設定する。

低 学 年 目 標	高 学 年 目 標
・ 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	・ 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。

(国際理解教育)

・積極的に「対話しようとする」英会話の力をつけることを目標とする。原則的にAll in Englishで授業を行い、アクティビティーやゲームを取り入れ、楽しく英語学習に取り組めるようにする。

・ALTの英会話に触れさせることにより、英会話のリズムやテンポを身につけさせる。

※ ALTとともに行う授業 8回以上

(2) 共に生きる心を持ち、自他の人権を尊重する力を育てる。

(人権教育)

・一人一人が認め合い、差別を許さない仲間づくりの育成に取り組む。

・縦割り班活動を通して、思いやる心や協調性・自主性を伸ばす。

・人権集会を開いたり、人権作文や人権標語に取り組んだりして人権意識を高める。

(道徳教育)

・学校教育活動全体を通じて、道徳的な心情・価値の自覚。及び、自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力などを養うようにする。

(総合的な学習)

・自ら課題を見つけ、その達成のために、意欲的に学んだり考えたり、判断しながら、問題をよりよく解決する能力を育てるとともに、問題の解決や探究活動に主体的・協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方について、考えられるようにする。

(環境教育)

◎子どもたちが、環境について深く理解し、環境を守るための行動がとれるようになるため、学校における環境教育の充実を図る。

・総合的な学習の時間における環境に関する学習をはじめ、各教科・道徳・特別活動を通して実施していく。

※ 昨年度水道使用量 3パーセント削減 ※ 電気使用量 1パーセント削減

(音楽教育)

◎表現したり聴き合ったりする活動を通して、音楽を愛好する心情や音楽に対する感情を育て、豊かな情操を養う。

・学校におけるすべての音楽活動の場(授業・集会・芸術鑑賞会・鼓笛等)において指導する。

(3) 教育環境の整備・充実と、その活用を図る。

(図書館教育)

◎図書館の運営と利用指導を充実させ、児童の学習活動を促進し、読み取る力や、豊かな心情を育てる。

・図書館を利用した学習。

・全校読書の取り組み

※ 水曜日の厚生タイムを読書の時間にする。

・児童の読書量の向上

※ 読書冊数 月5冊以上

(情報教育)

◎課題や目的に応じてコンピューター等様々な情報手段を適切に活用できる能力の育成に努める。

・調べ学習にインターネットを利用する。

・自分を表現する方法のひとつとして、情報機器を利用する。

・時代にあわせた情報モラルを育む。

※ コンピューター室の利用 年間10回以上 ※ 情報モラル講座(高学年) 年1回

校内研修基本計画

1 はじめに

ここ数年『学び合う喜びを求めて ～聴き合い つながり合う 授業づくり～』の研修主題をかかげ、授業研究を中心に研修に取り組んできた。学び合う授業とは、「学びへの価値ある思いや願いを持った子どもが、教材とともに、友だちとともに、教師とともに活動しながら、自分の学び（変容）を成立させようとしていく授業」としている。

しかし、教師が研修に励み、子どもたちのために一生懸命努力していることに違いはないが、個々に大切に考えるものが異なったり、教師の基盤になるようなものがなかったりしていた。そのため、学年間での系統性がなく、バラバラな指導になっていることもある。また、子どもの学びが深まらず、いつまでたっても高まっていけないこともある。そこで、今年度は全教職員が一丸となり、ひとつの目標に向かっていきたい。

昨年度の子どもたちの様子を見てみると、教師が教材の本質を明確につかみ、豊かな内容を内に秘めて子どもたちの前に立ったとき、子どもたちは豊かな感性で学習に取り組み、学び合う姿が見られた。そのような授業を目指し、今一度、教師の本分である研修に力を入れて、子どもたちのために努力をしていきたい。

今年度は学習指導部と連携し、「物語の読解を中心にした基礎的・基本的な知識・技能の習得のための授業づくり」と「知識・技能を活用する授業づくり」を2本柱とし、「自分の思いを、言葉や資料を用いて表現する子ども」を目指し、国語科の研修に取り組む。

物語や説明文などの読解を通して、子どもたちの知識・技能の習得を目指すことは当たり前だが、研修主題の実現に向け、子ども同士が学び合い、教師がそれを支える授業への転換を図るためにどうすればよいかに研修の重きを置いていく。そのために、普段の話し方・聞き方など、授業の基本となる事柄からを全職員で共通理解しながら研修に取り組んでいく。

また、平成23年度より本格実施される新学習指導要領を受け、これらの基礎的・基本的な知識・技能を活用する研修にも取り組む。ただ、知識を習得するだけでなく、それらを用いて思考し、判断し、表現していくことによって、子どもたちのさらなる可能性を伸ばすことができると考える。

2 中長期的な重点目標

- (1) 学習者である児童を中心とした教育観に立ち、指導方法、指導体制を工夫し、充実感の持てる授業を創造する。
- (2) 新しい学習内容や教具に対応できるよう、研修を進める。
- (3) 新学習指導要領の研究を進め、授業の転換を図る。

3 本年度の具体的行動計画（※印は評価指標）

【研修主題（テーマ）】

学び合う喜びを求めて ～聴き合い つながり合う 授業づくり～

- (1) 学習者である児童を中心とした教育観に立ち、指導方法、指導体制を工夫し、充実感の持てる授業を創造する。

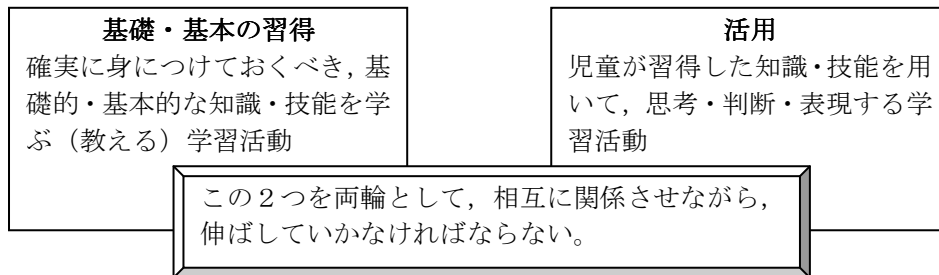
- 子どもたちの現状をしっかりと把握し、実態に応じた指導ができるようにする。
- 物語読解・話し方・聞き方など、基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて、日々の授業に取り組む。
 - ・国語科（読解力）を中心にした研修会 ※年3回以上
 - ・学習指導部との連携（話す・聞く・読む・書くの目標）
- 子どもたちの学びが深まるように、それぞれの目標にあわせた指導方法や指導体制の工夫
 - ・机の配置、発表の仕方、TT、グループなど
- 子どもたちの充実感や達成状況を把握するため、振り返りをする。
 - ・一言感想を書いたり、授業の様子を観点別に自己評価したりする

○授業研究の実施

- ・共通した課題認識・意識改革・指導技術向上を図る
- ・目標の設定や指導方法について検討を行う
 - ※事前検討会の実施
- ・公開授業を行う
 - ※一人一回以上（専科も含めて）
 - ※全体公開授業 低・中・高学年部 各1回以上（他は、学年部公開）
 - ※基本的に国語科とする（専科担当教科，人権の場合もあり）
 - ※できる限り，指導主事など助言者を招聘する

○教師自身が自ら学ぶ姿勢を堅持し，相互に悩みを話し合う場を数多く持ち，互いに磨き合う集団づくりに勤める。

【イメージ図】



(2) 新しい学習内容や教具に対応できるよう，研修を進める。

【外国語活動】

○積極的に「対話しようとする」英会話の力を付ける

具体的なゴール

「卒業時点で，一日の生活を英語でコミュニケーションをとりながら，対話できることをめざす。」

- ①英語のリズムやテンポを自然に見につけさせる。
 - ・原則として，All in English で授業を行う。
- ②早期に授業方法を身につけ，児童が楽しんで授業に取り組めるようにする。
 - ・4月，5月，6月に行われる模擬授業・教材教具の使い方・ゲームやアクティビティのためのプリントの使用方法・ゲームの方法についての講習会に参加する。 ※期間中 2回以上
 - ・上記3ヶ月の間に，模擬授業を行い，交流し合う。
- ③クラスの実態に応じた授業づくりを行う。
 - ・9月，10月，11月に模擬授業を行い，学年部で検討及び交流を行う。
 - ※年間計画の作成（5，6年生）
 - ※Word 表の作成（5，6年生）

【情報機器活用】

○子どもたちの意欲や興味より高めるために，情報機器の効果的な活用をする。

- ・必要にあわせた情報機器の配置
- ・全体研修会の実施
 - ※年間 3回以上

(3) 新学習指導要領の研究を進め，授業の転換を図る。

○国語科の改定のポイントを中心に研究を進める。

- ①言語力育成の中核を担う教科として，生活や学習に必要な能力を見につけるため，記録・報告・解説・推薦などの言語活動を充実。
 - ②ことわざ，故事成語，神話・伝承，古文・漢文の音読など古典に関する指導を充実。
- ・全体研修会の実施
 - ※年間 2回以上